ありがとう上島町！

上島町での生活が終わってしまうなんて信じられない。この記事がでる８月には、私はすでにアメリカです。

ふりかえってみると、日本に行きたいと思ったきっかけは、日本での日常生活に興味があったから。また、国外での生活に挑戦すれば、世界のことや、自分自身についても学びを得ることができると思ったから。これは今、思っていたとおりだったと証明されました。

日本で一番苦労したのはコミュニケーション。大学で少し日本語を学びましたが、生活するための準備にはなりませんでした。言葉の壁で友達を作るのが難しかったのが本音です。でも、私の英会話グループは毎週私と楽しく話をしてくれて、岩城に住んでいる私を支えてくれました。彼らには本当に深く感謝しています。少しずつ生活にも慣れ、新しい友達もでき、その友達のおかげで四国、広島、富士山に旅行することもできました。また、バーベキューや地域のイベントも楽しかったです。

私の日本に対する見方は、まだほんのひとにぎりです。ほとんどの時間を教職に費やしたので、他のライフスタイルを体験できませんでした。でも、ここで教師の仕事ができたことに感謝しています。私は上島町の生徒たちはとても特別だと感じました。私の母が春に岩城を訪れた時、島を歩きながらつぶやきました。子どもたちがとても楽しそうにしていることにすごく驚いていました。岩城はとても美しく、平和な場所です。その環境が、みんなを安心させ、つながりを感じさせているのだと思います。私が教えていた学校では、生徒たちはいつも私に親切でした。少人数制でコミュニティがあるため、みんながお互いの幸福を願えるのだと思います。

私は生徒一人ひとりの個性を知ること、誰が兄弟なのか知ることや似ているところ違うところを発見すること。そんなことで日常を楽しんでいました。私は生徒たちが教えてくれることに驚かされっぱなしでしたが、何よりも、彼らと一緒に勉強ができたことに感謝。彼ら一人ひとりが、一生懸命努力し、常に夢を持ち続ければ、必ず夢を実現できることと私は思っています。上島町を離れるのは寂しいですが、ここでできたたくさんの友人や思い出は忘れません。これらの経験を胸に刻み、これからの私の行動を形作っていきます。では、これでお別れです。上島町の皆さん、今までありがとうございました！　ニック

今月の担当ＡＬＴ（岩城）
ニコラス・パイツェル

英会話教室

弓削 月 19:30 ～ 弓削地域交流センター
生名 月 11:00 ～ 生名3分団集会所
岩城 木 19:30 ～ 岩城総合支所庁舎

双葉俳壇二一六五回句集

五月晴堰堤溢るる水飛沫　伊佐　幹男

指先を黒く染めつつ枇杷をむく　田中　華丘

枇杷実り御辞儀するごとたわゝなり　澤田　丈子

早起きの気分爽快五月晴　幸本　郁夫

五月晴孫懐妊の知らせ受く　山元　征子

老ゆるほど母似となりぬ枇杷すする　美濃部妃苗

そっと剥く夫の接木の枇杷熟す　森本　伸子

通院のペダル重たし五月雨る　古林　幹枝

枇杷盗む烏威嚇の声放つ　幸本　孤燈

令和六年歌会始のお題

歌に詠む場合は「和」の文字が詠み込まれていればよく、「平和」、「調和」、「和服」のような熟語にしても、また、「和らぐ」、「和む」のように訓読しても差し支えありません。

「和」

詠進歌の詠進要領

◆詠進歌はお題を詠み込んだ自作の短歌で一人一首とし、未発表のものに限ります。

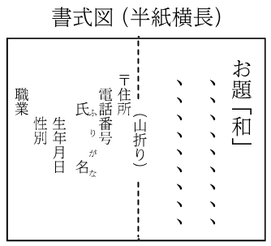
◆**書式**　用紙は半紙とし、記載事項は全て毛筆で自筆してください。（書式図参照）

◆**期間**　9月30日（土）まで（消印有効）

◆**宛先**　〒100-8111　宮内庁

※封筒に「詠進歌」と記載

書式図（半紙横長）



詳細は「令和六年歌会始」で検索

かみじま郷土話 20

塩田による塩づくり

上島町が属する瀬戸内海式気候は、雨が少なく、カラっとした晴の日が多い特徴があります。その気候を生かして、町の島々では古くから塩田による塩づくりが行われてきました。弓削島では、大田林の塩浜や高浜八幡神社において、中世の揚浜式塩田の遺構である浜床が見つかっていますが、どうやって塩田から塩を取り出していたのでしょうか。

揚浜式塩田の場合は、海岸近くの海水が流入してこない高所に塩田を造成します。塩田には、海砂が撒かれており、その下部には浜床と呼ばれる粘土を突き固めた硬質な土層が造成されています。汲み上げてきた海水を塩田に撒いて天日干しを行うのですが、浜床が下部にあるので、撒いた海水が下層に流れていくのを防いでくれます。そうして、海水の水分が蒸発すると、海砂に塩分が付着し、鹹砂(かんしゃ)が出来上がります。しっかり乾かした鹹砂をかき集め、沼井(ぬい)と呼ばれる木枠の桶に投入し、それを海水で洗うことにより、鹹砂に付着した塩分が海水と共に流れ出て、塩分濃度が高い海水である鹹水(かんすい)を取り出すことができます。

鹹水を釜で焚くことにより、ただ単に海水を煮詰めるよりも多くの塩を得ることができます。海から塩田まで海水を運搬するなど、塩田による塩づくりは大変な重労働でした。しかし、こうした工程を経ることにより、当時としては貴重な薪などの燃料を節約することにつながっていました。

▲塩田に海水を運搬する際に使用した担い桶
（魚島離島留学生 参河遼さん撮影（職場体験））

教育課
曽根　大地